

## プログラム解説

<神田さん自ら書いていただきました>

### タイタニック The Legend of the Titanic／ジェームス・ホーナー James Horner

もしこの船に乗っていた人に会えたら、どんな話が聞けるのだろうか。そんなイメージで編曲しました。深く冷たい海の底に眠るタイタニック号。記憶が一気によみがえると、出航のシーン。力強く進む船に胸が躍ります。やがて惨事は起こり、船内は悪夢の世界に。危機迫る雰囲気と海の怖さを演奏でどう表現するか、練りに練りました。そして船も魂も、深く深く沈んでいく。そんなストーリーが皆さまに伝わるのでしょうか。ちなみに、私はこの映画を観たことがありません・・・。

### オペラ座の怪人 The Phantom of the Opera／アンドリュー・ロイド・ウェバー Andrew Lloyd Webber

言わずと知れたミュージカルの最高傑作です。狂おしいほどに燃える愛の物語にぴったりな美しい旋律の数々からは、歌詞がなくとも思いがじゅうぶんに感じ取れることでしょう。ロックのテイストを盛り込んだメインテーマのほか、二重唱のシーンを中心に、5曲をメドレー形式でお届けします。今日は舞台の主役になりきって聞いてください。そう、長年ファントムを演じたベテラン俳優も、彼の演奏で歌いたい！って言ってくれたんですよ。

### アランフェス協奏曲 第二楽章 "Concierto de Aranjuez" Adagio／ホアキン・ロドリゴ Joaquín Rodrigo

ギターの協奏曲の中では、突出してよく知られた名曲です。特に第2楽章は有名で、さまざまなジャンルの音楽家によって演奏されています。私も子供の頃にポールモーリアのレコードを聴いて、あまりの美しさに気を失いそうになりました。「恋のアランフェス」とも呼ばれることがあるので、失恋の曲かと思われることもありますが、内戦に揺れた祖国の平和を願って作られたそうです。ギターの細かいニュアンスを鍵盤で表現するだけでも相当の集中力が必要ですが、同時に大所帯のオーケストラの役も果たさなければなりません。でも、それらはあくまでさりげなく。大切なのは、平穩の意味を、音楽を通じて皆さまにお届けすることですから。

### 歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」 間奏曲 Intermezzo from Cavalleria Rusticana

／ピエトロ・マスカーニ Pietro Mascagni

この世で最も美しい曲は？と聞かれたら、真っ先にこの曲だと答えます。オペラは血みどろのストーリーですが、この間奏曲だけは、どこまでも穏やかで清らか。まるで天使が舞い降りてくのが見えるようです。この短い曲にも、イタリアのすべてが凝縮されていて、一音一音の合間に走馬燈のように駆け巡ります。単に小品として扱わず、あくまでグランドオペラの一部という位置づけ、たとえるならショベルカーで野の花一輪をすくいあげるような体力バランスで演奏します。

### 歌劇「サロメ」 七つのヴェールの踊り Tanz der sieben Schleier from Salome

／リヒャルト・シュトラウス Richard Georg Strauss

リヒャルト・シュトラウスの管弦楽は、とにかく豪華絢爛です。それぞれのセクションが自在に動きまわって

いるのに、見事に織り重なって、美しいタペストリーに仕上がります。これをひとりで表現するには、各パート、つまり各指の独立性を高く保たなければなりません。しかし、技術のことに精いっぱいでは、音楽の中にサロメがいなくなってしまう。恐ろしい女が登場するオペラはたくさんありますが、このサロメのエグさは際立っています。エキゾチックなリズム、蠱惑的なメロディ、妖艶なハーモニー。その中に潜む純真をぜひ見つけてみてください。

—休憩—

## ダフニスとクロエ第2組曲 Daphnis et Chloé Suite No.2 / モーリス・ラヴェル Joseph-Maurice Ravel

ラヴェルの曲はどれを取っても、旋律にも和音にもひねりが効いていますし、センスの良さが光っています。中でもダフニスとクロエは特にスケールが大きく人気の高い作品ですが、演奏するには、大規模なオーケストラに加え合唱も必要なので、なかなかたいへんです。これをひとりで弾ければ、オーケストラが滅多に来ない地域でも聞いてもらえるというのが、取り組みのきっかけでした。

第2組曲は三つの部分から成っています。最初の「夜明け」では、この世のものとは思えない美しい風景を。地球の目覚めを思わせる、宇宙的な壮大さも感じられることでしょう。真ん中の部分は「無言劇」。フルートの独奏が、本能的な感情を映し出します。弾くというより吹くという感覚で鍵盤に接しているところにもご注目ください。最後は「全員の踊り」。歓喜を通り越して狂気に達した気迫とスリルを醸します。純粋な少女と青年の恋が成就するまでの昔話。若いころの細やかな動きを表現したいと思います。

## 展覧会の絵 Tableaux d'une exposition / モデスト・ムソルグスキー Modest Petrovich Mussorgsky

プロムナード Promenade

小人（グノーム） Gnomus

プロムナード Promenade

古城にて Il Vecchio castell

鶏の足の上に建つ小屋 - バーバ・ヤガー La cabane sur des pattes de poule - Baba-Yaga

キエフの大門 La grande porte de Kiev

ロシアのムソルグスキーが書いたこのピアノ独奏曲は、さまざまな人によって管弦楽用に編曲されていますが、今回はラヴェル編曲のものを使い、特に人気の高い6作品を抜粋して演奏します。親友の死に際し、何もしてやれなかったという無念は、作曲家をどのように突き動かしたのか。こうした男の友情に着目し、友を思うという視点でスコアを眺めてみました。遺作に触れながら、ムソルグスキーの心は、いったい何を見つめていたのか。展覧会の絵の、その向こうにある心情を探っていきましょう。

Y. K.